

2022年1月吉日

様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島
理事長 小松 幸子

三島駅南口東街区再開発事業・ECIに関わる施工者の皆様へ
—「水の都・三島」の地下水と水辺環境を守るための対応へのお願い—

新年、明けましておめでとうございます。今年も良き年でありますように、
祈念しております。

さて、「グラウンドワーク三島（GW 三島）」は、市民・NPO・行政・企業との
パートナーシップにより、環境の悪化が進んだ「水の都・三島」の原風景・
原自然の再生・復活に29年間にわたり取り組んでまいりました。

その結果、かつては、ゴミが捨てられ、汚れていた源兵衛川には、ホテルが
乱舞し、水中花・三島梅花藻が咲き乱れる、誰もが、その美しさに感動する魅
力的な水辺空間が蘇り、2016年11月には「世界かんがい施設遺産」に、2018
年1月には「世界水遺産」にダブル登録されました。今では、多くの子どもた
ちが水遊びに興ずる、年間720万人もの観光客が訪れる「水の都・三島」と、
なりました。

この成果は、何事にも、多様な利害者が寄り添い、数多くの議論と検討の時
間を蓄積していく「三島型・市民総意」の事業推進のスタイルがベースになっ
て出来上がったものです。GW 三島の役割は、利害者の調整仲介役となり、行
政や企業の利害や思惑だけに偏らない、中立的で専門性の高い、地域特性や愛
郷心を踏まえた「市民総意」の事業計画を提案・実行することにあります。

GW 三島は、今まで、民間企業の開発で改変の危機が迫った三島測候所や三
島梅花藻の里の水源地、養鱒場跡地など、民間企業が買収済みの土地を、三島
市による買戻しを実現して宅地開発やマンション建設の撤退・中止を成し遂げ
て来ました。

すなわち、GW 三島が集めた1万人以上の署名や市民総意の力が、市長と議
会の意向・考え方に影響を与え、多くの難題を解決してきました。

しかし、今回の三島駅南口東街区再開発事業につきましては、これまでに三島市民が進めてきた「三島型・市民総意」のスタイルとは手法が大きく異なり、市民との数多くの議論・検討が行われることなく、市民の納得や合意形成のプロセス、詳細な情報提供などが、不十分なままに進められてきております。

当然、事業協力者の民間企業や三島市、準備組合からは、多くの市民や GW 三島などの環境まちづくり団体に対して、事業内容についての詳細な説明は無く、関係者のみに特化したやり取りが続き情報閉鎖の状態が長く続いています。

これでは、国内外において、SDGs(11 番目の目標「住み続けられるまちづくりを」と 17 番目の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当)の重要性が叫ばれている中で、情報公開と地域の信頼性確保に関わる企業の社会的責任を履行しておらず、市民無視・軽視の対応だと評価せざるを得ません。

特に、今回の高層マンション・ホテル・商業施設・駐車場などの建設に関わり、「①工事費の増加による過大な財政負担、②命の水の地下水の汚濁・減少・消滅、③伊豆半島ジオパーク三島ジオサイトの貴重な溶岩層と破壊と登録抹消の懸念、④富士山の眺望阻害、⑤駅前への集客集中化による中心商店街の衰退、⑥慢性的な交通渋滞、⑦ビル風被害、⑧日照問題、⑨想定される南海トラフ地震等の巨大地震被害、⑩工事中の振動被害や公害問題」などが懸念されます。

また、コロナ後の経済動向を踏まえても、三島市への現実的な経済効果やメリットについては、問題点や疑義、不安ばかりが想定されおり、事業としての現実性・採算性・経済性が疑わしく、あわせ、事業者としての説明責任も十分に果たされておらず、市民感情としては、本事業推進の真実性と優位性を到底、理解・認知することはできません。

とにかく、本事業を見直し・中止すべきでは、ありませんか。豊岡武士三島市長や豊岡派の市議会議員、情報閉鎖・市民無視の三島市職員などには、今の三島市政の運営を任せておけないとの厳しい意見が噴出しております。

本年、12 月には、三島市長選を控え、本事業を推進する豊岡市長に対抗し、本事業の見直し・中止を目指す、新たな市長候補の選出・調整を NPO としてではなく、仲間とともに進めているところです。当然、本事業の成否が、今回の市長選挙の主要な「争点」になる激しい選挙戦が展開されるとものと予測しています。

また、東街区は、市有地であるものの、位置付けや機能としては、「伊豆・富士山の玄関口」であり、三島市や民間企業だけの利害や思惑を優先・活用していいものではありません。

さらに、コロナ禍の下、こんなにも再開発事業を急がなくても、伊豆・富士山全域を視野に入れた、広域的な土地利用・施設配置の議論を、伊豆・富士山全域の首長や川勝平太静岡県知事などと議論・検討することが先決ではないかと考えています。

川勝平太静岡県知事は、今までの知事定例記者会見において、何回も、今回の三島駅南口東街区再開発事業による高層マンションや商業施設の建設については、容認できず「反対」であり、今後、ますます市民との十分な議論を行い、地下水や水辺環境の徹底した保全対策を策定して、市民の不安や懸念を払拭すべきだとの意向を表明しています。

今後の再開発事業の法律的な手続きにおいては、静岡県の理解が必要不可欠であり、川勝知事の理解なくしては、本事業の円滑な推進・実現は望めません。

今までの川勝知事からの反対の意向表明は、このような大規模事業を急ぐ、豊岡市長に対しての「抑止」「反対」のメッセージだと解釈できます。

今後、GW 三島としては、今回の再開発事業による地下水や水辺環境に与える悪影響を鑑み、建築・地質・水循環・生態系などの専門家からの問題点の指摘と提案をまとめた「要望書」を、豊岡市長と川勝知事に提出します。

以上、様におかれましては、今回の三島駅南口東街区再開発・ECI に関わる施工者「募集」について「①絶対的に不十分な市民との意見交換会のさらなる開催と情報公開・合意形成、②県や国の補助金支出の合意の確認、③60m 以上の高層マンション建設に必要とされる大臣認可取得の確実性、④耐震性検討未実施の基礎地盤の地震時での安全性の確認、⑤高層マンション建設地での 10 箇所以上の地質調査の実施、⑥御社の溶岩層掘削による地下水・湧水への汚濁・減少・枯渇など環境被害未発生 of 科学的・地質的根拠の明確化、⑦世界遺産・伊豆半島ジオパーク登録抹消問題への適切な対策・排除」を、御社におかれましても明確に確認・検証された上で、市民や NPO の意向を踏まえた「ECI に関わる募集」への対応をお願いします。

御社におかれましては、市民合意の不足や地下水や湧水、豊かな水辺環境に影響を与えると想定される本事業に対しての「ECI に関わる募集」につきましては慎重な対応を要望するものです。

今後とも、GW 三島の諸活動に対しまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

担当者:渡辺豊博（専務理事）・美和将弘（事務局）

住 所:〒411-0857 静岡県三島市芝本町 6-2

電 話:055-983-0136 FAX:055-973-0022

E-mail info@gmishima.jp URL <http://www.gwmishima.jp/>

参考資料

① 本事業地区の地質的な問題点

- ・ 現在の三島市営駐車場は 4m から 6m の厚さの埋土・盛土となっている。
- ・ その下層部に割れ目・気孔・空隙が多く、脆弱な状態の溶岩層が分布し、その溶岩層の中を、三島の地下水本流が流れている。
- ・ 今回の高層マンション建設の基礎工事によって、湧水の汚濁・減少・枯渇などの甚大な環境被害が発生する危険性を懸念している。
- ・ 三島市としての現在の見解・説明は、地下水は、溶岩層の約 10m 下を流れており、掘削基礎面が地下水位より高く、地下水位までに距離・余裕があることから、環境被害の発生などの問題はまったく無く、安心だと断言・主張している。
- ・ しかし、地質調査による 6 本の柱状図(別添資料①参照)を確認・検証すると、ボーリング調査時に逸水状態が数多く発生しており、地下水位も浅い位置にあることが実証されている。
- ・ また、掘削時の試掘写真(別添資料②参照)を確認・検証すると、何箇所もの割れ目・気孔・空隙や供試体の採取無しの状態を確認できることから、何本もの地下水脈の存在を確認できる。
- ・ この見解・評価の違いが原因となり、今回の事業に対しての市民の不安や懸念を払拭することができず、本事業に対する市民の不信感の大きな原因になっている。

② 本工事による地下水への環境被害発生の懸念と今後の市民の責任追及

- ・ 本事業の施工者が難解で膨大な工事期間と工事費が必要となる駐車場の埋土と板状で困難を伴う溶岩層の掘削・排除・運搬を行うことにより、直下流にある湧水地・水源地である「菰池公園」や「鏡池」「白滝公園」「浅間神社・神池」(線上に位置)に悪影響を与える危険性を懸念している。
- ・ 最悪の場合、枯渇状態などを発生させたとしたら「水の都・三島」の宝物・命の水を毀損させ、取替えしのつかない経済的損出が発生させることになり、三島市民の怒りは爆発し、結果、市民の総力を結集しての施工者に対しての激しい市民運動の発起と責任追及が始まり、多くの市民が、法的な手段の行使を含め、命がけの責任追及と損害賠償を行うものである。三島っ子の「水の都・三島」への愛郷心は強烈で激しい。

参考資料①

ボーリング柱状図―三島駅南口東街区再開発事業地盤調査業務

参考資料②

三島駅南口東街区再開発事業に伴う地質調査業務委託報告書
―平成 29 年 3 月 三島市役所 日本エルダルト株式会社

③ 地質学者・塩坂邦雄先生の見解

伊豆半島ジオパーク・北伊豆エリア価値毀損・登録抹消の危機

高層マンション建設予定地には、北伊豆エリアのジオパークを形成している溶岩トンネルや溶岩塚を形成している「箱根軽石堆積層」があり、三島市による再開発事業によって、伊豆半島ジオパークの価値が毀損される危険性がある。

リニア中央新幹線委員 地質学専門家 Facebook コメントより



塩坂 邦雄
2020年9月27日

三島溶岩流の下部に、箱根軽石流堆積層が存在しており、溶岩流の流れが変位する場所で、溶岩トンネル・溶岩塚、二次溶岩流等人類が作成できない貴重な自然現象が見られます。
地下6mの直接基礎は、地下ダムのように上流の水位は上昇しますが、下流の水位は下降して、三島湧水群に影響を与えます。
再度、原点に戻って三島市民にとって何が大切かを考える必要性を強く感じています。

